

## 令和2年度 第2回

### 精神保健福祉士養成科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和3年3月19日（金）16:00～17:30

場所：zoom形式

#### 参加者名

委員	阿部	未麻貴	（医療法人社団総合会 武蔵野中央病院 相談室長）
委員	瀬川	聖美	（社会福祉法人 本郷の森 理事長）
委員	関原	育	（東京都精神保健福祉士協会 理事）
教員	岡崎	直人	（精神保健福祉士養成学科 学科長）
教員	根本	典子	（精神保健福祉士養成科 学科長）
職員	萬崎	保志	（教務課 次長）
職員	丸山	航也	（教務課）
職員	板野	弘明	（教務課）
職員	松木	健太	（教務課）

#### 議題

##### 1. はじめに

萬崎より前回の会議から振り返り、及び、今回の議題の4つのポイントについて説明があった。

- ① 学生の意識を高めていく為にできること。
- ② 就労前（在学中）に、国家試験の勉強以外で学んでおいて欲しいこと。
- ③ （コロナの影響が来年度もあるとき）学内実習において現場感覚をどのように体験させるか。
- ④ 福祉業界で長く活躍してもらう為に、卒業後も継続して成長を続けられる卒後の学び、卒後の相談など、学校や施設・業界と連携できることはないか。

##### 2. 検討事項

- ① 学生の意識を高めていく為にできること
- ② 就労前（在学中）に、国家試験の勉強以外で学んでおいて欲しいこと

<委員からの主な意見>

阿部)

あくまで自分が携わってきた中でのイメージとして、『大卒生は“やりたい勉強”があり、その結果として、資格がある（専門職になるため）』、『専門卒生は“資格を取る為”に勉強がある（資格を取るため）』。資格取得や就職がゴールになっている結果、就職後、業務をしていく中で意識の差やモチベーションに差が出ているように感じることもある。もちろん、全員がそれに当てはまるわけではない。

働いて伸びる人かどうかの差は、「考える力を持てる・課題意識がある」という点ではないだろうか。自ら考える力を持ってないと経験を積み上げることができず、数年で大きな差が生まれていく。

関原)

資格取得はあくまでスタートライン。そこからどのように専門職を育てていくのが重要。現場業務では、精神科領域だけでなく児童や障害、生活困窮などにも目を向ける視野の広さがあると良い。

自身のキャリアプランは一人ひとりが考えるべきことなので、その一助となるよう在学中から現場のワーカーや施設など連携できると良いのではないか。

瀬川)

個人的には大卒生と専門卒生の差はあまり感じない。国家試験を複数回受験してようやく合格した人のほうが、入職後センスが良いなど感じることもある。

<学科教員からの意見>

根本)

資格取得が当面の目標になっている学生が多いことは否めない。資格取得後どうしていくのかということに目を向けさせていきたい。ただ、現行のカリキュラムの中で授業時間を割くことは物理的に難しい。国家試験後であれば就職に向けた学習機会を作ることができるかもしれない。

### ③ (コロナの影響が来年度もあるとき) 学内実習について現場感覚をどのように体験させるか。

<学科教員からの意見>

根本)

医療機関も可能であれば実習を行いたい。実習地の確保が困難な場合、今年度同様動画などを活用した学内実習を行う予定。地域施設に関しては例え短い時間でも、可能な限り外部実習を行いたい。

<委員からの主な意見>

関原)

他校も配属実習ができないところがほとんど。代わりに施設の人を学校にお呼びするなどの対応をとっている様子。

### ④ 福祉業界で長く活躍してもらう為に、卒業後も継続して成長を続けられる卒後の学び、卒後の相談など、学校や施設・業界と連携できることはないか。

<委員からの主な意見>

瀬川)

勤務先では、通常2次面接で現場実習を3日ほど行っていたが、今年の内定者の中に、当事者

に会った経験もないという方もおり、通常より長い5日間実習を行った。入職後の教育にも力を入れていくつもりだが、不安は残る。

阿部)

当院では現在新卒者の採用は行っていないが、仮に新卒の採用ができるとなった場合、振り返りの場を多く作り、考える機会を与えたい。繰り返し行うことで本人の考える力を伸ばしていき、私たちは支えていくというイメージをしている。

### 3. まとめ

- ・大卒生と1年制専門課程卒生の入学時の目的の違いは、そのまま意識の違い、モチベーションの違いに直結する。後者は資格取得が最終目的にならないよう学生の意識改革が必要。また、卒後の定着・活躍を考えると、国家試験の勉強だけでなく、「自ら考える力」や「課題意識」の養成や、自身の将来像をイメージさせることを在学中から取り組むことが重要。
- ・1年制課程として、通常のカリキュラム外で、将来のイメージを醸成させるような時間を構成することは現状難しい。限られた時間の中でどのようにカリキュラム外の時間を捻出していくのか、次回までに学内にて改めて検討し、現状より少しでも改善できる対策が出てくれば、改めてプランとしてご報告・ご意見をいただきたい。
- ・次年度もコロナウイルスの影響により、実習を外部実習のみとすることは困難と考えられる。そのため、学生及び、就職先の施設の不安要素をできるだけ解消できるよう、学内実習の改善は引き続き検討する必要がある。

### 4. おわりに

- ・令和3年度も6～7月頃に令和3年度1回目の会議を予定。またその半年後を目安に2回目の会議を実施する。
- ・事前に資料などで取り組みをまとめたら、共有させていただく。